

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2791600303		
法人名	社会福祉法人 西谷会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム 憩～江坂～		
所在地	大阪府吹田市江坂町2丁目14-22		
自己評価作成日	平成26年12月14日	評価結果市町村受理日	平成27年2月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 MIRO谷町 4階		
訪問調査日	平成27年1月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

オープンして間がないため、まだまだ不十分ではあるが入居時や面会時など入居者やご家族への聞き取りを行い、入浴や散歩など個人の生活習慣や希望により利用者ひとりひとりに合わせ個別ケアを実践している。
またなるべく利用者の生活リズムを尊重し、それぞれのペースで過ごして頂けるようにスタッフの時間に合わせた流れにならによる配慮している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体は宝塚市に社会福祉法人として介護老人保健施設等を運営している。開設9ヶ月を経過した施設は3階建ての2～3階に地域密着型特別養護老人ホームを併設し満室になっているが事業所は1階部分に2ユニット18室あるが現状1ユニットだけの利用状況となっている。ケアマネージャーを兼任している管理者は初年度から年6回の運営推進会議開催への状況や利用者ごとの契約時の家族とのアセスメントや介護記録等書類整備はきっちりされていると共に職員にも周知している。施設全体で年間研修計画を作成し、職員の質向上を図っている。外部評価時の職員とのヒヤリングでは利用者本位の考え方や日々、年輩者を”鏡”として励んでいる姿勢等感性が素晴らしく、貴重な人材として期待できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を共有し、入居者との生活やケアを提供していく中で実践するよう努力している。	法人理念として「虚往実帰」を掲げ、職員への周知を図っていると共に事業所は利用者により「安心して暮らせる第二の家」と思っていたような関わりを目指している。	地域密着型サービスの意義を理解し、職員皆で話し合いの上、事業所独自の理念を作成し、掲示し、共有を図り、日々実践につなげることを検討されては如何でしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加し、地域の情報を得たりしながら、地域の一員として生活できるよう努力している。	自治会に加入して、回覧の情報を得ている。自治会や民生委員に運営推進会議への参加を依頼しているが拒否されている。敬老の日に近隣の保育園に出かけたり、社協を通じボランティアを受け入れている。	開設9ヶ月、その間地域との交流に色々努力されているが満足ではない。事業所だけの課題ではなく、法人・施設全体での取組を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	計画はしているが今のところ実施できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	苦情や事故報告・行事報告など事業所としての運営状況を報告し、意見交換を行うと共に地域の情報を頂いたりし、それを取り入れることで入居者へのサービスの向上に努めている。	開設1年目で年6回の開催に向かって着実に進んでいる。会議内容も単なる報告事項だけでなく、家族や地域包括支援センター職員から意見を聞き、運営に活かしている。現在地域住民の代表等参加メンバーの拡充を検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	受入に問題のある新規入居希望者があった場合など、必要に応じて相談し、指導を頂くなどして、サービスが問題なく行えるよう努力している。	分からない事があれば市担当に問い合わせるようにしている。利用者の入所等の事例で適切なアドバイスも得ている。2か月に1回行っている地域ケア部会に参加し、情報を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開き、身体拘束の弊害などを学び、入居者の人権を尊重し、身体拘束をしないケアに努めているが玄関ドアの開錠はできていない。	身体拘束廃止マニュアルを整備し、年間研修計画に組み込み、定期的に研修を実施し、職員の共有を図っている。自由に外出は出来ないが、日々の散歩を実施し、希望に沿うように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	折に触れ、高齢者虐待について話し合い、職員同士がお互いの言動に注意し合い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	それぞれが多少の知識は持っているがそれらを共有し、活用できるレベルにまでは至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際、解約や利用料等についてもゆっくりと納得して頂けるよう説明し、十分理解して頂けるよう努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	なるべく小まめにご家族に報告や連絡を行い、面会時なども話しやすい雰囲気を作るよう心がけて対応しており、意見や苦情を頂いた場合はなるべく速やかに対応し、運営に反映するようにしている。	家族との面談時は意見を言い易い環境に配慮している。把握できた家族の要望を運営推進会議でも話し合い、運営に活かしている。苦情受付書を整備し、対応結果を家族に説明している。利用者ごとに担当制を敷いており、利用者の状況をより密に把握している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や面談の際または日常の業務においても職員の意見に耳を傾ける機会を作り、利用者の対応や業務の改善などに反映している。	毎月のユニット会議はユニットリーダーが主催し、職員1人ひとりに聞き、業務改善・カンファレンス・ケア会議になるように会議を進めている。個別面談も取り入れ、運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいを持って働けるよう職員個々の能力に合わせた役割の提供などに努め、評価に繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を計画的に実施し、外部研修の参加も個々のレベルに合わせて進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当該自治体での施設長部会やケア部会などに積極的に参加し、交流を深め、ネットワーク作りなどに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症があるためご家族が中心になりがちではあるが入居者の情報を基に要望を探り、安心していただけるよう、信頼関係を築く努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	言葉には表せないご家族の思いにも注意を払い、ご家族同士の関係性などにも気を配り、十分に聞き取りを行い、信頼関係を築くよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	公平な立場で相談を聴くようにし、当事業所のサービスのみに関わらず適切な援助が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と職員を対等の立場に置き、本人の能力や出来ることを把握し、なるべく出来ることは自分でして頂き、ともに生活する家族のような関わりを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日々の状態を伝え、出来る限りご家族に協力して頂きながら、信頼関係を築けるよう働きかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に情報を頂いたり、協力して頂き、今までの関わりがなるべく途切れないように支援している。	利用者の友人や過去住まっていた近隣の知人が来訪しているケースがある。馴染みの美容室にご主人が同行したりしている。近隣のスーパー等買い物には職員と一緒にいくようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を把握し、トラブルを予防しながら気の合う方同士の関わりを大切にし、生活していけるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も家族様の相談に乗れるよう、関係を継続していけるよう、在籍中から信頼関係を築けるよう努力をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	在宅での暮らし方や好みをご家族に聞き取ったり、日常の会話等から本人の思いに気づき、意向に沿えるよう努力している。	入所時にフェースシートやアセスメントで利用者の過ごし方や生活歴を把握し、職員に周知し共有をしている。利用後も繰り返し、利用者・家族との会話から新たな思い・要望を聞き、希望に沿えるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のみならず、入居後もご家族への聞き取りを行い、日常の関わりの中で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	すべて個別に対応できるよう一人一人の状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	認知症の為本人への聞き取りは困難であるが日常の様子観察などによって気づいた、本人やご家族の望まれること、ケアのあり方について職員で話しあい、意見やアイデアを出し、介護計画に反映するようになっている。	毎月のユニット会議や3か月ごとにモニタリング・カンファレンスを実施し、家族や医師と相談しながらチームによる介護計画作成につなげている。見直しも3か月ごとに行っているが急変時や入退院には即対応するようになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録し、職員間で情報共有し、介護計画にも活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われなない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族の個別のニーズを把握し、それに答えられるよう柔軟なサービスを提供できるよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	まだまだ不十分ではあるが地域の情報を得たり、協力体制を作るよう努力をし、利用者が地域に溶け込んで生活できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者とご家族の希望の聞き取りを行い、納得した医療機関を受診できるように支援している。	協力医療機関は救急対応時に依頼している。利用者の半分は法人理事である医師より、月2回の往診を受けている。従来のかかりつけ医への通院支援は家族に依頼しているが都合が悪いときは事業所が支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態を把握し、変化があれば看護職に報告し、指示を仰ぎ、必要な医療が受けれるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には速やかな退院に向けて、地域医療連携室との連携を図り、情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の指針を取り交わし、定期的に本人・ご家族の考えを確認しながら支援するよう努力している。	入所時に家族と終末期に関する対応指針書を説明し、同意を得ている。昨年末に正看護師が退職し、現状加算を外しているが上階に特養もあり、法人も募集中である。まだ看取り経験は無いが出来るだけ家族の希望に沿えるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的ではないが入職時などに実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員間での訓練は実施しているが、地域との協力体制は今後の課題である。	年2回、災害時の訓練を実施する予定で既に1回施設全体で避難訓練を行っている。消防設備や備蓄は整っているが満室だと37人の利用者があり、いつ起こるとも限らない地震・水害・夜間時の火災等は心配である。	所轄消防の助言も得ながら各災害時の避難誘導マニュアルを整備し、避難場所の確認や外部資料も参考にし、より実践的な訓練とその頻度を増やすことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	これまで過ごしてこられた人生を尊重し、誇りを傷つけないような対応を心がけるよう共通の認識を持つよう努めている。	先輩である利用者のプライバシーを損ねる言葉使いや態度に十分に配慮するように職員に言っているが気づいた時は即注意するようにしている。昼食時の視認で優れた利用者への接し方を実践している職員を拝見した。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が決めつけることなく希望を確認し、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならない様利用者様の希望に沿うよう努力し、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各利用者の好みを尊重し、その人らしいおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在のところ週に1回程度ではあるが昼食レクを実施し、利用者の能力に合わせ、職員と一緒に調理や片付けをする機会を作っている。	1階の厨房室で業者に委託し、調理されたものを朝・昼・夕食を全館に配食している。週1回は希望を取り入れた食事レクを実施し、利用者が買い物から手伝いながら楽しい食事になるように支援している。	GHの特徴である利用者が買い物から片づけまで手伝い、職員と一緒に楽しく食事するという他の施設と違う独自性があり、出来るだけ食レクやおやつ作りを増やすことを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量のチェックを行い、不足している場合は状態に合わせ、工夫して摂取して頂けるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力に合わせ、適切な口腔ケアができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンに合わせ、誘導や介助を行い、失禁を減らし、快適に過ごせるように、又なるべく自立に近づけるよう支援している。	利用者ごとの排泄パターンを把握し、日中は誘導で自立で排泄が出来るように支援している。入所後布パンツに改善できた方もいる。水分補給や散歩及び運動を大切に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取や散歩など軽い運動を行いなるべく便秘を改善・予防できるよう働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	自宅での生活習慣を尊重し、時間帯などなるべく希望に合わせて落ち着いて入浴して頂けるよう支援している。	週3回は個浴で入浴が出来るように支援している。希望があれば毎日でも対応し、時間も日中は希望に沿うよう支援している。菖蒲湯等の楽しい入浴も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活習慣やリズム、その時の状態に合わせて、気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服用している薬の理解に努め、適切な服薬支援が行え、変化にも気づけるよう努力している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人一人の趣味や楽しみを把握し、日常生活に取り入れ、張り合いや喜びのある日々が過ごせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の散歩はなるべく本人の希望に合わせて実施しているが、遠方の外出などについては聞き取りも不十分であり、対応できていない。	天気の良い日は年間を通じ、日課のように外出希望の方に近隣の神社等に散歩している。また外気に触れる日向ぼっこ等も大切にしている。季節ごとに花見や紅葉狩り等車を使って出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	なるべく希望に沿うようにしているが高額にならないようお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	代理で電話はしているが本人自らはできていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる手作りカレンダーを飾ったり、ソファを設置したりして、居心地良く過ごせるように配慮している。	施設はきれいで清潔である。共用空間の居間兼食堂は構造上日当たりがなく外の景色が見られないのが残念であるが壁の所々にイベント時の写真や手作りのカレンダー及び折り紙が飾られ、明るさの工夫をしている。トイレ・浴室等は安心感があり、また2階の多目的ホールも頻繁に使用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置くなどしているがまだ不十分である。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様と相談し、なるべく馴染みの物を持ってきて頂くようお願いしている。	馴染みの家具や置物を持ち込み、人形や思い出の写真が飾られている。居室入口には番地番号と分かり易い表札を掛け、家と変わらなく居心地よく過ごせるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、居室など分かりやすく表示している。		